

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

学校名	太良町立多良中学校
1 前年度 評価結果の概要	昨年度の重点目標は①魅力ある・分かる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。②自己肯定感、自己有用感を育て、自他を大切に、将来の夢の実現を育む。③道徳を中核とした教育活動全般を通して規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。の3点であった。すべての項目において、A～Bの達成度を得ており、おおむね目標達成ができたとの評価結果であった。
2 学校教育目標	郷土を愛し、自ら学び、仲間とともに伸びる生徒の育成
3 本年度の重点目標	① 魅力ある・分かる授業づくりを推進し、学力の向上を図る。 ② 開発的生徒指導や特別活動、教育相談等の充実を図り、自己肯定感、自己有用感を育てる。 ③ 進路学習や道徳教育を中核とした教育活動全般、及び生徒指導の充実を通して、規範意識を高め、豊かな人間力を育成する。

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。 ●生徒意識調査で「一人一人に分かりやすく教えてもらっている」の回答率90%以上を目指す。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ●TTによる授業を行い、困り感を持つ生徒の支援を行うと同時に細やかな指導により、基礎学力の定着に努める。
	○学習環境づくり	○意識調査で「どの授業も落ち着いて学習ができている」90%以上を目指す。 ○意識調査で、家庭学習の充実度に対する生徒・保護者のプラス評価85%以上を目指す。	●学年掲示スペースの活用。各教室の学習環境整備を図る。 ●「家庭学習のすすめ」を全家庭に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ●生徒・保護者に自主学習ノートの活用法や学習例を提示する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○意識調査で、心の教育に対する生徒・保護者のプラス評価が93%以上を目指す。	●学年のスタッフをチームとして全職員が道徳の授業に携わり、生徒の道徳心(道徳的価値)の向上に努める。 ●道徳の指導案や資料を共有し、ICTを活用して授業の充実を図る。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的な対応ができていると回答した教員90%以上を目指す。	●生活アンケートを月1回実施し、情報を共有しながら予防的措置や早期発見、早期対応に努め、適宜教育相談を行う。 ●Q-Uテストを実施し、生徒の学校生活の状況を客観的、個別的に把握することで要支援生徒に対して日常的な支援を行う。 ●保護者との連絡を密に行うなど、小さな情報を見逃さないよう家庭・地域・関係機関との連携を強化する。
	◎生徒が夢や希望を持ち、その実現に向けて意欲的に取組もうとするための教育活動	○教育活動等を通して、自らの夢や目標の実現に向け努力する態度、郷土に誇りを持つ心情を育む。 ○意識調査で「自分には良いところがある」とのプラス評価90%以上を目指す。	●生徒会活動、福祉体験、職場体験、修学旅行等での体験学習、自主研修等を通して、体験活動を充実させる。 ●キャリアパスポートを活用した計画的、継続的な進路学習に取組む。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で40分以上の児童生徒80%以上を目指す。 ○健康意識の調査項目で、生徒・保護者の保健指導に関するプラス評価85%以上を目指す。	●休みに運動場を開放し、積極的に運動に取組む生徒を増やす。 ●部活動への参加を推進する。 ●保健室からの健康維持・増進に関する情報発信の充実を図る。
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上を目指す。	●主に給食時間を利用し、生徒自身が望ましい食習慣を身につけようとする意欲の醸成につなげる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●毎週水曜日を「定時退勤日」とし、行事黒板に提示し、意識高揚を図る。 ●運営委員会で議案について細部まで検討し練り、職員会議は主に周知・確認の場として時間短縮を図る。 ●連絡事項は「スクールネット」「テレビモニター」を活用し、連絡会等の回数、時間を短くする。
	○家庭・地域と連携した「開かれた学校づくり」のための工夫・改善	○学校行事や授業参観への保護者の参加率40%以上を目指す。	●学校だよりや学年・学級通信、学校情報メール等を活用して、家庭への連絡や情報の発信・提供に努める。 ●学校行事や授業等に外部指導者(地域の方)を講師として招く。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○特別支援教育の充実	○支援が必要な生徒に対する理解に努め、個に応じたきめ細かな対応ができる校内支援体制の構築	○意識調査で、保護者及び教職員の特別支援教育に対するプラス評価85%以上を目指す。	●個別の支援計画を作成し、特別支援会議やケース会議を適宜開催し、職員の共通理解のもと、適切な支援の在り方を探っていく。 ●講師を招聘しての研修会を含め、特別支援教育に関する研修会を数回実施し、個々の生徒に対して適切な対応ができるようにする。
○学校行事への参画	○生徒・保護者の学校行事への参画意識の向上	○意識調査で、学校行事参画に対する生徒・保護者のプラス評価85%以上を目指す。	●生徒一人一人が役割を持ち、出番の機会が増えるように検討し、それぞれの学校行事を実施する。 ●生徒会活動を中心に、「気づき、考え、行動する」を念頭に置いた指導を展開していく。
○適時的確な情報発信	○学校教育目標の周知・徹底	○教育目標「郷土を愛し、自ら学び、仲間とともに伸びる生徒の育成」と重点目標について、生徒・保護者・教職員への周知率90%を目指す。	●学校教育目標、重点目標について、職員会議等を利用して職員へ呼びかけ、それぞれの職員の校務分掌の中で具現化を呼びかける。 ●職員会議資料やPTA役員会資料に学校目標を掲示する。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育